

## ㊦ 編集後記 ㊦

五月の薫風とともに新しい号を読者に送る。今回の特集は整形外科疾患の理学療法を、昨年の理学療法学会の報告者から、執筆をお願いした。日常治療に役立つ臨床的な研究成果を中心に、具体的・啓蒙的な内容の執筆を依頼した。

岡西氏は大腿四頭筋訓練について反復訓練・筋疲労・荷重下での訓練を述べてくださった。多くの疾患に有用な内容である。阿部氏はRAの頸椎病変に対する術前術後の訓練方法と成績を詳述してくださった。文調は硬いが豊かな内容を読み取っていただきたい。辛島氏の腰痛教室の説明は、内容がきわめて具体的である。吉成氏には、頸部骨折患者に実際の生活に即した訓練計画を提示していただいた。健側上下肢の筋力強化の必要性、早期離床と歩行実現成果との関係検討、脳血管障害合併例の吟味などの議論を今後に期待したい。河村氏の骨悪性腫瘍の下肢温存手術に対する理学療法は、高い内容を理解しやすく解説してくださった。

投稿原稿は3本掲載されている。須釜氏の「0歳児に対する呼吸理学療法」は貴重な報告である。肺理学療法は万能ではないが、確かな効果を積み重ねて、さらに有効性を証明していただくことを期待したい。金井氏の「肘屈筋形成術後の理学療法」も貴重さでは同様である。再



建術におけるもっとも有効な運動療法の方法論検討が動作分析的手法によって、確立されることを今後期待したい。水上氏の「頸髄損傷の移動能力」に関する報告は、成果はもちろん残存能力と動作方法など、頸髄損傷を扱うすべての人々が指標としてくださることを期待する。

2本の講座はともに歩行に関するものである。一方は脊髄小脳変性症とParkinson病の歩行特性を平易に解説し、他方は平衡障害に対する異なる領域からの詳しい解説である。図からずも近着の「神経研究の進歩」でも起立歩行が特集として組まれている。ともに多くの読者にぜひ一読を勧めたい。

‘あんでな’からは第28回日本リハビリテーション医学会米本恭三会長の熱意が伝わってくる。岩田氏のとびら、龍氏の「しびれ」、坂口氏の「光化学治療の効果」、正門氏の「くすりの知識」、いずれも興味深く読むことができた。(安藤 徳彦)

### ●編集顧問●

天 児 民 和  
九州労災病院名誉院長  
五 味 重 春  
東京都立医療技術短期大学  
学長  
津 山 直 一  
国立身体障害者リハビリテ  
ーションセンター総長  
横 山 隆 巖  
七沢リハビリテーション  
病院脳血管センター院長  
(五十音順、以下同じ)

### ●編集委員●

安 藤 徳 彦  
神奈川県総合リハビリテ  
ーションセンター  
上 田 敏  
東京大学リハビリテ  
ーション部  
鶴 見 隆 正  
高知医科大学附属病院  
奈 良 敷  
金沢大学医療技術短期大学部  
福 屋 靖 子  
筑波大学  
松 村 秩  
東京都立医療技術短期大学  
吉 尾 雅 春  
協和会病院

### ●編集同人●

伊 藤 日出男  
今 川 忠 男  
宇都宮 初 夫  
大喜多 潤  
大 田 近 雄  
大 橋 ゆかり  
大 峯 三 郎  
金 子 誠 喜  
菊 地 延 喜  
木 山 喬 博  
工 藤 俊 輔  
佐々木 伸 一  
高 田 京 子  
高 橋 正 明  
武 富 由 雄  
寺 山 久美子  
富 岡 詔 子  
長 澤 弘 隆  
橋 元 隆  
濱 出 茂 治  
半 田 健 壽  
藤 沢 しげ子  
前 田 哲 男  
牧 田 光 代  
松 沢 博  
松 下 起 士  
丸 田 和 夫  
丸 山 仁 司  
宮 本 重 範  
矢 谷 令 子  
山 下 隆 昭  
山 本 和 儀  
米 田 睦 男

## 理学療法ジャーナル

(第25巻 第5号)

1991年5月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,442円(本体1,400円)

(配送料61円)

〔年ぎめ予約購読料 16,440円〕  
(本体15,961円)  
(送料弊社負担)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)3817-5600

本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 東京7-96693番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)3637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1991, Printed in Japan

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• 無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。